

1 目指す学校像

「HARD SPIRIT 貫徹精神」の下、幅広い知識と教養を身につけ、逞しく豊かな心身を培い、郷土や我が国さらには国際社会の発展に貢献する志を涵養し、国際人として大局的な視点に立って行動できる人間を育てる学校を目指す。

2 本年度の教育目標

①学びの習慣の確立と学力の向上

生きる力につながる確かな学力の定着を目指し、学びのプロセスとしての学習習慣の確立と共に学びの結果としての学力の向上を図る。

②特別活動と部活動の充実

逞しく豊かな心身と他者との協働を喜びとできる「睦み」の心の育成を目指し、社会性、協調性、主体性を育てる特別活動と部活動の充実を図る。

③キャリア教育と地域貢献の推進

社会の中で自己の在り方生き方を見つめ、社会に貢献する志の涵養を目指し、キャリア教育や道德教育を推進すると共に、生徒、保護者、地域社会に開かれ、地域社会に貢献する教育活動を推進する。

④英語運用力の向上と国際交流活動の推進

上記3点の育成を基盤としたその上に、国際人としての知性・感性を備え、大局的な視点に立ち、日本の内外の問題に対する正しい理解に基づいて行動できる人間、すなわちグローバルリーダーの育成を目指し、英語運用力の向上を図ると共に国際交流活動を推進する。

3 評価

項目	昨年度の課題	本年度の目標	目標達成のための手だて	中間期評価	自己評価	学校関係者評価	今後の課題																																																																																																																										
学 び の 習 慣 の 確 立 と 学 力 の 向 上		① 家庭学習習慣づくり 【1年】 90時間/月 【2年】 100時間/月 週明けテスト 【1年】 合格率100%	・能率手帳スコラの活用、スマホ・ 携帯端末の活用指導 ・予習・復習用課題を精選して作成 し、提出を確実にさせることで学習 習慣を確立させる。 ・家庭学習時間調査を定期的におこ ない、ホームごとの調査結果を学 年全体に提示していく。 ・家庭学習時間を増やすために、 授業テストを毎回行う。	平均家庭学習時間 【1年】 5月中間考査発表時 110分/日 6月期末考査発表時 108分/日 90時間以上/月 31名 60時間以上/月 76名 【2年】 5月中間考査発表時 212分/日 6月平常時 84分/日 100時間/月以上 4名 60時間/月以上 45名 週明けテスト 【1年】 合格率 国語68.4% 英語95.1%	家庭学習時間 一日の平均 (分) <table><tr><th rowspan="2">学年</th><th rowspan="2">生徒数</th><th colspan="2">一学期</th><th colspan="2">二学期</th></tr><tr><th>考査時</th><th>平常時</th><th>考査時</th><th>平常時</th></tr><tr><td>1年</td><td>277</td><td>110</td><td>—</td><td>182</td><td>—</td></tr><tr><td>2年</td><td>281</td><td>212</td><td>84</td><td>229</td><td>102</td></tr></table> 週明けテストの合格率 <table><tr><th></th><th>第1回</th><th>第2回</th><th>第3回</th><th>第4回</th><th>第5回</th><th>第6回</th><th>第7回</th><th>平均</th></tr><tr><td>国語</td><td>78.4</td><td>58.4</td><td>85.5</td><td>89.7</td><td>94.9</td><td>86.6</td><td>69.5</td><td>80.4</td></tr><tr><td>英語</td><td>96.0</td><td>94.2</td><td>76.4</td><td>87.6</td><td>87.2</td><td>28.8</td><td>70.0</td><td>77.2</td></tr></table> 家庭学習時間について、2学期に僅かな改善がみられるが、設定 目標を下回る結果となっている。2年生11月時では、毎日3時間以上 の家庭学習を行っている生徒は20名、毎日2時間以上行っている 生徒は65名となっている。この結果より、過半数を超える生徒が 課題にのみ取り組んでいる状況であると推測される。 1年生の週明けテストの結果からも日常の家庭学習が確立されて いない状況が見て取れる。家庭学習を促す授業及び教科指導の確 立が求められる。	学年	生徒数	一学期		二学期		考査時	平常時	考査時	平常時	1年	277	110	—	182	—	2年	281	212	84	229	102		第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	第7回	平均	国語	78.4	58.4	85.5	89.7	94.9	86.6	69.5	80.4	英語	96.0	94.2	76.4	87.6	87.2	28.8	70.0	77.2	C C	家庭学習時間が少ない背景の一つとして、学習動機が働いていないことが考えられる。学習の動機づけを促すために、プロパーとして常に授業改善を図っていく。具体的には、学習内容はもとより教授方法を磨くことが肝要である。研究授業を基盤に据えて、教育遺産の伝達を図るとともに教授法の検討を行う必要がある。																																																																									
	学年	生徒数	一学期		二学期																																																																																																																												
			考査時	平常時	考査時	平常時																																																																																																																											
1年	277	110	—	182	—																																																																																																																												
2年	281	212	84	229	102																																																																																																																												
	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	第7回	平均																																																																																																																									
国語	78.4	58.4	85.5	89.7	94.9	86.6	69.5	80.4																																																																																																																									
英語	96.0	94.2	76.4	87.6	87.2	28.8	70.0	77.2																																																																																																																									
	② 読書習慣づくり 図書貸出冊数 【1・2年】 1000冊/年 【2年】 読書感想文コンクール入賞10名以上	・各教科と連携して授業関連書籍を紹介してもらう。 ・ホームや授業、学年、部活動など様々な場面で啓発の意識を持ち、読書の重要性や意義を伝え、興味関心を持たせるよう働きかける。	図書貸出冊数(7月末) 【1年】 489冊 【2年】 264冊	図書貸出冊数と読書感想文コンクール入賞者 <table><tr><th>学年</th><th>貸出冊数</th><th>高知県読書感想文コンクール</th><th>高知県テレビ視聴感想文コンクール</th><th>大原富枝賞</th></tr><tr><td>1年</td><td>971</td><td>入選7</td><td>佳作1</td><td></td></tr><tr><td>2年</td><td>772</td><td>優秀1、入選6</td><td>最優秀1</td><td>小説最優秀1・優秀1</td></tr><tr><td>3年</td><td>724</td><td>最優秀1、入選7</td><td>優秀2、優良1</td><td>小説優良1・佳作1、読書優良1</td></tr></table> * 貸出冊数は3月28日現在 図書の貸出冊数は一定の成果が見られた。読書感想文コンクールにおいても目標入賞者数を達成した。とりわけ、大原富枝賞では昨年に引き続き小説部門で最優秀賞に選出された。	学年	貸出冊数	高知県読書感想文コンクール	高知県テレビ視聴感想文コンクール	大原富枝賞	1年	971	入選7	佳作1		2年	772	優秀1、入選6	最優秀1	小説最優秀1・優秀1	3年	724	最優秀1、入選7	優秀2、優良1	小説優良1・佳作1、読書優良1	B B	模擬試験における数学の結果から、中学校での理数の指導が課題になるのではないかと。高校入学時において、計算力に問題が見られる生徒も少なくない。 家庭学習は2極化の傾向にあるのではないかと。量を増やすことも大事だが、いかに効率よく勉強させるかが課題となる。	コンクール等の受賞数を勘案すれば、図書室からの貸し出し冊数以上に読書をしている生徒は多いと推測される。しかしながら、相対的であり、全校的な読書活動推進という雰囲気にはなっていない。グローバル探究で探究活動をする際に、文献等を積極的に活用するよう指導するとともに、ホームルーム担任や教科担任が、折に触れて読書について語る機会を持ちたい。																																																																																																						
学年	貸出冊数	高知県読書感想文コンクール	高知県テレビ視聴感想文コンクール	大原富枝賞																																																																																																																													
1年	971	入選7	佳作1																																																																																																																														
2年	772	優秀1、入選6	最優秀1	小説最優秀1・優秀1																																																																																																																													
3年	724	最優秀1、入選7	優秀2、優良1	小説優良1・佳作1、読書優良1																																																																																																																													
	③ 学力の向上 【1・2年】 国・数・英3教科総合の平均点偏差値50以上 各教科の平均点偏差値53以上 【3年】 国公立大学合格者100名以上	・実践の結果を随時周知し、課題の克服と競争意識の向上を図る。 ・センター試験は5教科型を基本とする。数学については、ⅠA・ⅡBを受験させるよう指導する。 ・推薦枠が有効に使えるよう学年で連携、情報交換を行っていく。 ・進学講座、長期補習、模試の出席率、受験率を上げる。	学力の向上 【1年】7月記述模試 3教科総合平均点偏差値49.1 国語50.8 数学48.9 英語48.2 3教科総合平均点偏差値60.0以上12名 【2年】7月記述模試 3教科総合平均点偏差値50.3 国語52.4 数学49.7 英語49.7 3教科総合平均点偏差値60.0以上18名 【3年】6月マーク模試 5教科7科目平均点偏差値 文系46.4 理系43.0 平均点偏差値60.0以上 文系7名、理系1名 50.0以上 文系47名、理系11名 7月記述模試結果 3教科総合平均点偏差値47.3	全国模擬試験結果 <table><tr><th rowspan="2">学年</th><th rowspan="2">教科</th><th colspan="3">1年次</th><th colspan="3">2年次</th><th colspan="3">3年次</th></tr><tr><th>7月</th><th>11月</th><th>1月</th><th>7月</th><th>11月</th><th>1月</th><th>7月</th><th>10月</th><th>11月</th></tr><tr><td rowspan="3">1年</td><td>3総合</td><td>49.1</td><td>49.8</td><td>50.3</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>国語</td><td>50.8</td><td>51.4</td><td>51.9</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>数学</td><td>48.9</td><td>49.4</td><td>49.7</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td rowspan="3">2年</td><td>3総合</td><td>49.3</td><td>50.6</td><td>52.1</td><td>50.3</td><td>48.5</td><td>48.2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>国語</td><td>52.2</td><td>53.1</td><td>53.2</td><td>52.4</td><td>52.2</td><td>52.1</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>数学</td><td>48.1</td><td>50.1</td><td>52.3</td><td>49.7</td><td>47.7</td><td>47.3</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td rowspan="4">3年</td><td>英語</td><td>48.7</td><td>48.9</td><td>50.3</td><td>49.7</td><td>48.1</td><td>48.8</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>国語</td><td>50.8</td><td>51.0</td><td>51.7</td><td>51.4</td><td>52.9</td><td>52.2</td><td>50.4</td><td>47.0</td><td>49.2</td></tr><tr><td>数学</td><td>46.8</td><td>48.6</td><td>49.8</td><td>50.2</td><td>50.0</td><td>47.3</td><td>47.3</td><td>46.6</td><td>42.8</td></tr><tr><td>英語</td><td>47.8</td><td>47.6</td><td>48.1</td><td>49.4</td><td>49.2</td><td>49.9</td><td>48.9</td><td>46.5</td><td>48.1</td></tr></table> 3年 国公立大学合格者数 81名 (3月28日現在) 国語は安定して成果が得られている。センター試験の校内受験者の平均点は、全国平均を6.6ポイント上回っている。数学は、低学力層の苦手意識を払しょくすることと学習方法を確立させることが課題である。英語については、補習講座をテーマや習熟度に応じて編成する等の対策を講じたい。	学年	教科	1年次			2年次			3年次			7月	11月	1月	7月	11月	1月	7月	10月	11月	1年	3総合	49.1	49.8	50.3							国語	50.8	51.4	51.9							数学	48.9	49.4	49.7							2年	3総合	49.3	50.6	52.1	50.3	48.5	48.2				国語	52.2	53.1	53.2	52.4	52.2	52.1				数学	48.1	50.1	52.3	49.7	47.7	47.3				3年	英語	48.7	48.9	50.3	49.7	48.1	48.8				国語	50.8	51.0	51.7	51.4	52.9	52.2	50.4	47.0	49.2	数学	46.8	48.6	49.8	50.2	50.0	47.3	47.3	46.6	42.8	英語	47.8	47.6	48.1	49.4	49.2	49.9	48.9	46.5	48.1	B	・1年生は緩やかな右肩上がり で成績が向上している。2年次のいわゆる「中だるみ」期を如何にモチベーションをもって乗り切るかといった学習指導が必要になる。 ・模試結果から判断すると、2年生は典型的な「中だるみ」に陥っていると言わざるを得ない。偏差値と実際の学力とのギャップが認められる生徒もいる。「なんとなく正解」から「根拠のある正解」へと指導をする必要がある。 ・センター試験受験率89%、センター試験の数学ⅡB受験率63%と、過去最高の受験率となった。課題としては、1年時から系統的に学習に向かうよう指導の工夫改善を図る。
学年	教科	1年次					2年次			3年次																																																																																																																							
		7月	11月	1月	7月	11月	1月	7月	10月	11月																																																																																																																							
1年	3総合	49.1	49.8	50.3																																																																																																																													
	国語	50.8	51.4	51.9																																																																																																																													
	数学	48.9	49.4	49.7																																																																																																																													
2年	3総合	49.3	50.6	52.1	50.3	48.5	48.2																																																																																																																										
	国語	52.2	53.1	53.2	52.4	52.2	52.1																																																																																																																										
	数学	48.1	50.1	52.3	49.7	47.7	47.3																																																																																																																										
3年	英語	48.7	48.9	50.3	49.7	48.1	48.8																																																																																																																										
	国語	50.8	51.0	51.7	51.4	52.9	52.2	50.4	47.0	49.2																																																																																																																							
	数学	46.8	48.6	49.8	50.2	50.0	47.3	47.3	46.6	42.8																																																																																																																							
	英語	47.8	47.6	48.1	49.4	49.2	49.9	48.9	46.5	48.1																																																																																																																							

項目	昨年度の課題	本年度の目標	目標達成のための手だて	中間期評価	自己評価	学校関係者評価	今後の課題																																																																	
2 特別活動と部活動の充実	・スクールカウンセラー(SC)のニーズが高まっている。不適応傾向を示す生徒に加え、保護者、教職員からの相談件数も増加している。効率的な面談を計画するとともに、必要とするSC招聘について県の担当部局に申請を図る。	① 心身の鍛錬と生活習慣の確立【1～3年】 皆勤	・1年間のクラス目標を設定し、そのなかで個々の目標達成に向けて努力する。 ・担任と授業担当、生徒サポート部、家庭との連携を図る。	皆勤(7月末) 【1年】 206名(74.6%) 【2年】 191名(68.2%) 【3年】 185名(67.0%)	皆勤 <table><tr><td>学年</td><td>生徒数</td><td>皆勤者数</td><td>皆勤率</td></tr><tr><td>1年</td><td>277</td><td>150</td><td>54.3%</td></tr><tr><td>2年</td><td>281</td><td>139</td><td>55.9%</td></tr><tr><td>3年</td><td>276</td><td>121</td><td>44.0%</td></tr></table> *1・2年生は2学期末。	学年	生徒数	皆勤者数	皆勤率	1年	277	150	54.3%	2年	281	139	55.9%	3年	276	121	44.0%	A	基本的な生活習慣を確立し、高い目標を持って学校生活を送っている生徒がいる一方で、不適応傾向にある生徒も見受けられる。個に応じた指導を充実させたい。																																																	
		学年	生徒数	皆勤者数	皆勤率																																																																			
		1年	277	150	54.3%																																																																			
		2年	281	139	55.9%																																																																			
		3年	276	121	44.0%																																																																			
② 逞しく豊かな心身の育成【1年】 部活動加入率90%以上 【2年】 部活動継続率80%以上 【3年】 部活動成績上位入賞	・各クラブとも、充実した魅力ある活動ができるように、計画的・継続した活動ができるようにする。 ・クラス、学年で切磋琢磨しながら自らを高めていく。	部活動参加者 <table><tr><td>学年</td><td>生徒数</td><td>活動者</td><td>加入率</td></tr><tr><td>1年</td><td>277</td><td>238</td><td>85.9</td></tr><tr><td>2年</td><td>281</td><td>255</td><td>90.7</td></tr><tr><td>3年</td><td>276</td><td>206</td><td>74.6</td></tr></table> 全国大会出場クラブ <table><tr><td>体育系</td><td>新体操</td><td>柔道</td><td>登山</td><td>水泳</td></tr><tr><td></td><td>サッカー</td><td>水球</td><td>少林寺拳法</td><td></td></tr><tr><td>文化系</td><td>美術</td><td>書道</td><td>放送</td><td>写真</td></tr></table> 全国大会出場 団体2 個人11	学年	生徒数	活動者	加入率	1年	277	238	85.9	2年	281	255	90.7	3年	276	206	74.6	体育系	新体操	柔道	登山	水泳		サッカー	水球	少林寺拳法		文化系	美術	書道	放送	写真	今年度より皆勤規定が改正されたにもかかわらず、半数前後の生徒が皆勤であり、西高生の生真面目さや勤勉性を物語っている。良き伝統、良き雰囲気を今後も継続したい。	A	全国大会に出場できる程の力を複数のクラブが有してきた。次年度の活躍に期待したい。																																				
学年	生徒数	活動者	加入率																																																																					
1年	277	238	85.9																																																																					
2年	281	255	90.7																																																																					
3年	276	206	74.6																																																																					
体育系	新体操	柔道	登山	水泳																																																																				
	サッカー	水球	少林寺拳法																																																																					
文化系	美術	書道	放送	写真																																																																				
③ 体力・運動能力の向上【1・2年】 全国平均並にする	・学校行事、集会を通して学年団としての結束を高める。	体力・運動能力テスト結果 <table><tr><td></td><td></td><td>握力</td><td>上体起こし</td><td>長座体前屈</td><td>反復横とび</td><td>シャトルラン</td><td>50m走</td><td>立ち幅跳び</td><td>ハンドボール投げ</td></tr><tr><td rowspan="3">男子</td><td>1年</td><td>×</td><td>×</td><td>×</td><td>○</td><td>×</td><td>×</td><td>×</td><td>×</td></tr><tr><td>2年</td><td>△</td><td>○</td><td>×</td><td>○</td><td>○</td><td>△</td><td>△</td><td>×</td></tr><tr><td>3年</td><td>△</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>△</td><td>○</td></tr><tr><td rowspan="3">女子</td><td>1年</td><td>×</td><td>×</td><td>×</td><td>○</td><td>×</td><td>×</td><td>△</td><td>×</td></tr><tr><td>2年</td><td>×</td><td>△</td><td>×</td><td>○</td><td>○</td><td>△</td><td>△</td><td>△</td></tr><tr><td>3年</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr></table> *○: 全国平均を超えている △: 全国平均並み ×: 全国平均を下回っている			握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	シャトルラン	50m走	立ち幅跳び	ハンドボール投げ	男子	1年	×	×	×	○	×	×	×	×	2年	△	○	×	○	○	△	△	×	3年	△	○	○	○	○	○	△	○	女子	1年	×	×	×	○	×	×	△	×	2年	×	△	×	○	○	△	△	△	3年	○	○	○	○	○	○	○	○	1年生では、男女とも全国平均を下回っている。2年生はほぼ全国平均並み。3年生、特に女子で全種目にわたって全国平均を上回った結果は特筆すべきことであり、体力づくりの成果である。	B	A	
		握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	シャトルラン	50m走	立ち幅跳び	ハンドボール投げ																																																															
男子	1年	×	×	×	○	×	×	×	×																																																															
	2年	△	○	×	○	○	△	△	×																																																															
	3年	△	○	○	○	○	○	△	○																																																															
女子	1年	×	×	×	○	×	×	△	×																																																															
	2年	×	△	×	○	○	△	△	△																																																															
	3年	○	○	○	○	○	○	○	○																																																															
④ 西高生としての基盤確立【1年】 学校適応100%	・担任と授業担当、生徒サポート部、家庭との連携を図る。	高校生活適応支援プログラム <table><tr><td colspan="2"></td><td colspan="2">1年生対象</td></tr><tr><td colspan="2">質問項目</td><td>肯定</td><td>否定</td></tr><tr><td colspan="2">①高校生活への不安が少なくなった。</td><td>82.5%</td><td>17.5%</td></tr><tr><td colspan="2">②高校生活を何とかやっていけそうな気がしてきた。</td><td>92.5%</td><td>7.5%</td></tr><tr><td colspan="2">③自分のクラスについて親しみが出てきた。</td><td>97.1%</td><td>2.5%</td></tr></table> 学校生活についてのアンケート(1年生) <table><tr><td></td><td></td><td>5月</td><td>11月</td></tr><tr><td rowspan="2">①本校に入学して良かったか。</td><td>肯定</td><td>88.1%</td><td>89.3%</td></tr><tr><td>否定</td><td>4.0%</td><td>4.0%</td></tr><tr><td rowspan="2">②学校を辞めたいと思ったことがあるか。</td><td>肯定</td><td>18.9%</td><td>18.8%</td></tr><tr><td>否定</td><td>80.8%</td><td>77.5%</td></tr></table>			1年生対象		質問項目		肯定	否定	①高校生活への不安が少なくなった。		82.5%	17.5%	②高校生活を何とかやっていけそうな気がしてきた。		92.5%	7.5%	③自分のクラスについて親しみが出てきた。		97.1%	2.5%			5月	11月	①本校に入学して良かったか。	肯定	88.1%	89.3%	否定	4.0%	4.0%	②学校を辞めたいと思ったことがあるか。	肯定	18.9%	18.8%	否定	80.8%	77.5%	学校適応 <table><tr><td>学年</td><td>生徒数</td><td>長欠</td><td>適応率</td></tr><tr><td>1年</td><td>277</td><td>0</td><td>100%</td></tr><tr><td>2年</td><td>281</td><td>3</td><td>98.9%</td></tr><tr><td>3年</td><td>276</td><td>1</td><td>99.6%</td></tr></table> *長欠:連続してあるいは断続的に30日以上欠席がある 不安や課題を抱えている生徒がいるものの、1年生の適応率100%は特筆すべき事項である。	学年	生徒数	長欠	適応率	1年	277	0	100%	2年	281	3	98.9%	3年	276	1	99.6%	A	グローバル探究で取り扱うテーマと、グループ・ワークショップで探究活動を行っていることが成果となって表れたと推察される。次年度も、一層の充実改善を進めたい。													
		1年生対象																																																																						
質問項目		肯定	否定																																																																					
①高校生活への不安が少なくなった。		82.5%	17.5%																																																																					
②高校生活を何とかやっていけそうな気がしてきた。		92.5%	7.5%																																																																					
③自分のクラスについて親しみが出てきた。		97.1%	2.5%																																																																					
		5月	11月																																																																					
①本校に入学して良かったか。	肯定	88.1%	89.3%																																																																					
	否定	4.0%	4.0%																																																																					
②学校を辞めたいと思ったことがあるか。	肯定	18.9%	18.8%																																																																					
	否定	80.8%	77.5%																																																																					
学年	生徒数	長欠	適応率																																																																					
1年	277	0	100%																																																																					
2年	281	3	98.9%																																																																					
3年	276	1	99.6%																																																																					
⑤ 学校行事への積極的な参加【1・2年】 錬歩会参加率100% 完歩率95%	・学校行事等を通して、ホームや学年の団結力を図る。	錬歩会 <table><tr><td>学年</td><td>生徒数</td><td>参加率</td><td>完歩率</td></tr><tr><td>1年</td><td>277</td><td>97.1%</td><td>100%</td></tr><tr><td>2年</td><td>281</td><td>97.1%</td><td>99.3%</td></tr></table>	学年	生徒数	参加率	完歩率	1年	277	97.1%	100%	2年	281	97.1%	99.3%	参加率100%は達成できなかったが、途中リタイアした生徒はわずか1名であり、貫徹精神が発揮された。	A	PTA役員の参加も定例してきた。次年度は生徒と一緒に錬歩する教員を可能な範囲で増やしたい。																																																							
学年	生徒数	参加率	完歩率																																																																					
1年	277	97.1%	100%																																																																					
2年	281	97.1%	99.3%																																																																					
3 キャリア教育と地域連携の推進	・社会的自己の成長を図る学習活動であるCAS (Creativity創造、Action活動、Service奉仕)の概念を取り入れたアンケートによって意識づけを行っている。 ・グローバル探究Ⅰでは、アクティブ・ラーニングが主な学習方法になることから、指導者の研修が必要になる。 ・生徒の社会に貢献したいとする意識は高いと考えられるが、明確な志まで固まっていない。学校の全教育活動、とりわけ教科の学習を通してキャリア教育を進めていく必要がある。	① 能動的学習の導入【1年】	・グローバル探究授業の活用による生徒の意識変革をめざす。	・海外リサーチへの希望者が定員の2倍であった。	グローバル探究Ⅰを通して、コミュニケーション力をはじめ、協働性や表現力が身に付いた。グループによる取組を通してクラスへの帰属感を高めることにつながった。	A	・グローバル探究Ⅰは、27年度の実績を基にPDCAサイクルを回していく。 ・グローバル探究Ⅱでは、批判的思考と論理的思考に基づいた探究活動を進める。研究の枠組みを共通理解する必要がある。 学校の行事計画の中に、地域に対する貢献活動を編成するのは現状においては負担が大きい。今年度同様に、生徒会や家庭クラブ、生徒個々の自主的な活動に依拠せざるを得ない。 社会に対して自己を役立てたいと思う生徒が多い。これらの生徒の持つ志を大切にしたい教育活動を行いたい。																																																																	
		② キャリア教育の充実【2年】 (基礎的・汎用的能力の育成)	・ホームや学年集会を通じて、果たすべき義務と責任を自覚させる。	・WALKプランⅡでは、より具体的に上級学校調べを行い志望理由について考え始めた。生徒の自己評価は4.1となっている。多くの生徒から、「意識が変わった。」「進路について考えることができるようになった。」「目標が見つかった」といった回答を得た。	2学期までの取組である志望理由書、小論文の書き方についての学習に課題が残った。内容を深めたり十分考察させたりする時間を確保できなかった。3学期は3年0学期と位置付け、進路探究学習を実施したが、折に触れて内省の時間を確保することが課題となる。	キャリア教育の充実改善を図る必要がある。目指す進路を受験を乗り切るためのモチベーションとして位置づけさせたい。		B																																																																
		③ 地域活動への参入	・地域のボランティア活動などに積極的に参加させる。 ・校内家庭クラブ活動において、ボランティア活動を計画し、積極的に参加させる。	・校門前の植栽の実施は、家庭クラブ委員以外で17名の参加があった。 ・“届けよう、服のチカラ”プロジェクト感想文より、自分たちでできる社会貢献について前向きに取り組もうとする意識が感じられた。	自主的な社会貢献活動 <table><tr><td></td><td>1年</td><td>2年</td><td>3年</td></tr><tr><td>行った</td><td>17.8%</td><td>18.1%</td><td>28.2%</td></tr><tr><td>これから行う予定である</td><td>14.1%</td><td>12.3%</td><td>13.2%</td></tr><tr><td>行っていない</td><td>67.4%</td><td>69.2%</td><td>58.3%</td></tr></table>			1年	2年	3年	行った	17.8%	18.1%	28.2%	これから行う予定である	14.1%	12.3%	13.2%	行っていない	67.4%	69.2%	58.3%	3割を超える生徒が肯定的な回答をしている。今後も、できる機会にできる場で自主的に参加する生徒を育成したい。	B																																																
			1年	2年	3年																																																																			
行った	17.8%	18.1%	28.2%																																																																					
これから行う予定である	14.1%	12.3%	13.2%																																																																					
行っていない	67.4%	69.2%	58.3%																																																																					
④ 社会貢献意識の醸成【1年】60%以上 【2年】70%以上 【3年】75%以上	・政治経済の授業においてアクティブ・ラーニングの手法を用いた授業を実践し、社会貢献意識の向上を促す。 ・挨拶と正しい言葉遣いを心掛ける。 ・学校行事には全員で参加し個々の役割に責任を持つ。 ・掃除は全員で手を抜かずにする。	・グループワークでは、物事を多面的に捉えている発言や社会と自己との関係性を意識した思考などが見られるなど、社会貢献意識の高い生徒の発言が目立つようになった。	学校評価アンケートより <table><tr><td></td><td>1年</td><td>2年</td><td>3年</td></tr><tr><td>教科の授業や総合的な学習の時間を通して社会に貢献しようとする志が芽生えていると実感している。</td><td>79.6%</td><td>72.0%</td><td>62.8%</td></tr><tr><td>ホームルームや学校行事を通して社会貢献の志が芽生えている。</td><td>76.0%</td><td>73.5%</td><td>74.0%</td></tr></table>		1年	2年	3年	教科の授業や総合的な学習の時間を通して社会に貢献しようとする志が芽生えていると実感している。	79.6%	72.0%	62.8%	ホームルームや学校行事を通して社会貢献の志が芽生えている。	76.0%	73.5%	74.0%		B																																																							
	1年	2年	3年																																																																					
教科の授業や総合的な学習の時間を通して社会に貢献しようとする志が芽生えていると実感している。	79.6%	72.0%	62.8%																																																																					
ホームルームや学校行事を通して社会貢献の志が芽生えている。	76.0%	73.5%	74.0%																																																																					

項目	昨年度の課題	本年度の目標	目標達成のための手だて	中間期評価	自己評価	学校関係者評価	今後の課題																																																																																																																																																																						
4	英語運用力の向上と国際交流活動の推進	① 英語運用力の向上1 ・英検にチャレンジする [取得目標] 【1年】 普通科準2級50%以上 英語科準2級100% 英語科2級取得20%以上 【2年】 普通科準2級100% 2級8%以上 英語科2級50%以上 【3年】 普通科2級15%以上 英語科2級100% 準1級3名	・授業でのプロジェクト活動により、生徒の英語使用量を増やし、実用的な英語力を身につける姿勢を育てる。 ・2次試験対策として、面接練習や同形式のスピーキングテストを実施する(1年)。 ・教科書を活用して2次対策を行い、合格につながる授業展開をする(2年)。 ・センター試験との共通点を示し、センター試験の学習をすると同時に、英検に対応する英語力を養う(3年)。	【1年】 準2級 普通科1名 (4名受験、取得率0.4%) 英語科2名 (3名受験、取得率5.0%) 【2年】 準1級 英語科合格者なし (2名受験) 2級 普通科1名 (3名受験、取得率0.4%) 英語科4名 (12名受験、取得率22.5%) 準2級 普通科24名 (40名受験、取得率35.8%) 英語科3名 (4名受験、取得率95.0%) 【3年】 準1級 英語科1名 (6名受験) 2級 普通科7名 (39名受験、取得率6.0%) 英語科6名 (14名受験、取得率69.4%) 準2級 普通科18名 (34名受験、取得率51.9%)	英検合格状況 <table><tr><th colspan="2"></th><th colspan="2">1年</th><th colspan="2">2年</th><th colspan="2">3年</th><th>合計</th><th>合格率</th></tr><tr><th rowspan="2">準1級</th><th>合格者数</th><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>3</td><td>3</td><td rowspan="2">11.1%</td></tr><tr><th>受験者数</th><td>0</td><td>2</td><td>1</td><td>11</td><td>1</td><td>12</td><td>27</td></tr><tr><th rowspan="2">2級</th><th>合格者数</th><td>0</td><td>5</td><td>9</td><td>22</td><td>13</td><td>13</td><td>62</td><td rowspan="2">28.8%</td></tr><tr><th>受験者数</th><td>1</td><td>15</td><td>65</td><td>47</td><td>56</td><td>31</td><td>215</td></tr><tr><th rowspan="2">準2級</th><th>合格者数</th><td>66</td><td>24</td><td>55</td><td>1</td><td>21</td><td>1</td><td>168</td><td rowspan="2">37.5%</td></tr><tr><th>受験者数</th><td>250</td><td>28</td><td>127</td><td>1</td><td>41</td><td>1</td><td>448</td></tr><tr><th rowspan="2">合計</th><th>合格者数</th><td>66</td><td>29</td><td>64</td><td>23</td><td>34</td><td>17</td><td>233</td><td rowspan="2">33.8%</td></tr><tr><th>受験者数</th><td>251</td><td>45</td><td>193</td><td>59</td><td>98</td><td>44</td><td>690</td></tr><tr><th colspan="2">合格率</th><td>26.3%</td><td>64.4%</td><td>33.2%</td><td>39.0%</td><td>34.7%</td><td>38.6%</td><td></td><td></td></tr><tr><th colspan="2">受験率</th><td>97.9%</td><td>100%</td><td>56.8%</td><td>100%</td><td>36.6%</td><td>63.4%</td><td></td><td>67.5%</td></tr></table> 英検取得状況 <table><tr><th colspan="2"></th><th colspan="2">1年</th><th colspan="2">2年</th><th colspan="2">3年</th></tr><tr><th rowspan="2">準1級</th><th>普通科 英語科</th><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>3</td></tr><tr><th>取得者率</th><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>7.3%</td></tr><tr><th>2級</th><th>普通科 英語科</th><td>0</td><td>7</td><td>9</td><td>27</td><td>20</td><td>33</td></tr><tr><th>以上取得者率</th><th>普通科 英語科</th><td>17.5%</td><td>3.8%</td><td>67.5%</td><td>8.5%</td><td>83.5%</td><td></td></tr><tr><th>準2級</th><th>普通科 英語科</th><td>67</td><td>31</td><td>108</td><td>13</td><td>105</td><td>5</td></tr><tr><th>以上取得者率</th><th>普通科 英語科</th><td>28.4%</td><td>95.0%</td><td>48.8%</td><td>100.0%</td><td>53.4%</td><td>100.0%</td></tr><tr><th>生徒数</th><th>普通科 英語科</th><td>237</td><td>40</td><td>241</td><td>40</td><td>235</td><td>41</td></tr></table> 準1級の3名取得(3年)、英語科における2級の取得率67.5%(2年)など、一定の成果が見られる。しかし、設定目標と実際の乖離が著しく、目標設定及び方法論の改善等について再考する必要がある。			1年		2年		3年		合計	合格率	準1級	合格者数	0	0	0	0	0	3	3	11.1%	受験者数	0	2	1	11	1	12	27	2級	合格者数	0	5	9	22	13	13	62	28.8%	受験者数	1	15	65	47	56	31	215	準2級	合格者数	66	24	55	1	21	1	168	37.5%	受験者数	250	28	127	1	41	1	448	合計	合格者数	66	29	64	23	34	17	233	33.8%	受験者数	251	45	193	59	98	44	690	合格率		26.3%	64.4%	33.2%	39.0%	34.7%	38.6%			受験率		97.9%	100%	56.8%	100%	36.6%	63.4%		67.5%			1年		2年		3年		準1級	普通科 英語科	0	0	0	0	0	3	取得者率						7.3%	2級	普通科 英語科	0	7	9	27	20	33	以上取得者率	普通科 英語科	17.5%	3.8%	67.5%	8.5%	83.5%		準2級	普通科 英語科	67	31	108	13	105	5	以上取得者率	普通科 英語科	28.4%	95.0%	48.8%	100.0%	53.4%	100.0%	生徒数	普通科 英語科	237	40	241	40	235	41	C	国際交流活動においては、生徒自身が歯がゆい体験をすることを通して、4技能のスキルアップに向かうような、そのような環境整備をする必要がある。	・1・2年生全員が受験する体制にならない限り、目標達成は厳しいと考えられる。しかしながら、そうなると指導者の手が足りないという問題が生じる。如何に自律的に臨む生徒を育成するか、学校全体で考える必要がある。
				1年		2年		3年		合計	合格率																																																																																																																																																																		
		準1級	合格者数	0	0	0	0	0	3	3	11.1%																																																																																																																																																																		
受験者数	0		2	1	11	1	12	27																																																																																																																																																																					
2級	合格者数	0	5	9	22	13	13	62	28.8%																																																																																																																																																																				
	受験者数	1	15	65	47	56	31	215																																																																																																																																																																					
準2級	合格者数	66	24	55	1	21	1	168	37.5%																																																																																																																																																																				
	受験者数	250	28	127	1	41	1	448																																																																																																																																																																					
合計	合格者数	66	29	64	23	34	17	233	33.8%																																																																																																																																																																				
	受験者数	251	45	193	59	98	44	690																																																																																																																																																																					
合格率		26.3%	64.4%	33.2%	39.0%	34.7%	38.6%																																																																																																																																																																						
受験率		97.9%	100%	56.8%	100%	36.6%	63.4%		67.5%																																																																																																																																																																				
		1年		2年		3年																																																																																																																																																																							
準1級	普通科 英語科	0	0	0	0	0	3																																																																																																																																																																						
	取得者率						7.3%																																																																																																																																																																						
2級	普通科 英語科	0	7	9	27	20	33																																																																																																																																																																						
以上取得者率	普通科 英語科	17.5%	3.8%	67.5%	8.5%	83.5%																																																																																																																																																																							
準2級	普通科 英語科	67	31	108	13	105	5																																																																																																																																																																						
以上取得者率	普通科 英語科	28.4%	95.0%	48.8%	100.0%	53.4%	100.0%																																																																																																																																																																						
生徒数	普通科 英語科	237	40	241	40	235	41																																																																																																																																																																						
② 英語運用力の向上2 英語ディベート全国大会出場 各種コンテスト入賞	都道府県又は全国規模で実施されるスピーチコンテストやディベート大会等の開催時期に合わせた適切な指導を行う。 ・授業との関連を持たせ、英語スピーチ・ディベートの技術力を向上させる。		・高知県英語弁論大会 即興部門エクセレントコミュニケーター賞(2年生) 国際教育特別賞(1年生) ・四国英語弁論大会 優秀賞(1年生) ・高知県英語ディベート大会 準優勝(2年生) ・日本文化英語プレゼンテーションコンテスト 優勝(2年生) ・高知県高等学校国際教育生徒研究発表大会 優秀賞(2年生) ・四国高等学校国際教育生徒研究発表大会 優秀賞(1年生) ・「四国遍路」高校生英語スピーチコンテスト 奨励賞(3年生) ・その他、英語ディベートよさこいカップへの出場の他、本校体験入学での英語科の紹介をする等、延べ50名が参加。	A	・この2年間、英語ディベート全国大会への出場が途絶えている。次年度は、県内唯一の英語科の復権を図りたい。																																																																																																																																																																								
③ 英語科における国際理解の推進と深化	・普通科生徒対象の英語特別講座へ授業を通して参加を奨励する。 ・長期留学生をクラスに配置する。 学年度末にイングリッシュキャンプを実施する(1年)。年末年始にイギリス語学研修を実施する(2年)。	・2学期よりドイツ、フランスからの留学生を配置。	・GEⅡで世界の課題を探究し、自分なりの意見を表明できた。 長期留学生や姉妹校・連携校からの短期留学生との関わりを通して、異文化についての理解やものの見方・考え方の違い、自分の意見を持つことの重要性などを理解することができた。	C	・授業において、留学生が発表したり意見表明する機会を設けたい。																																																																																																																																																																								
5	学習環境整備 ・南舎耐震工事への備え。	① 生徒の学習環境の整備・充実が常に図られている	・耐震工事、外壁改修工事などの工事に関しては、業者と連絡を密にして、教職員に必要な情報を発信し、円滑に工事が進むよう努力する。	・外壁改修工事については、無事終了。	【学校評価アンケートより】 「学習や部活動のための環境が整備されている」 保護者 72.1% (平成26年度78.6% 25年度81.8%)	B	B	・限られた予算の中で、優先事項を抽出し適切に執行していく。																																																																																																																																																																					
		② 安心・安全な教育環境が整っている	・身体の健康と成長を支えるため学校保健活動を計画的に実施し、事後の指導につなげる。 ・思春期の悩みを相談できる場と機会を設け不安なく活用できる環境を整え、心理面の支援をする。	・スクールカウンセラーへの相談件数は昨年に比して減少している。	【学校評価アンケートより】施設・設備に関する生徒からの要望 「グラウンドの外灯を増やしてほしい。」「ロッカーの設置。」「トイレを増やしてほしい。」「耐震工事の音がうるさくてイライラする。」 耐震工事について、騒音等生徒に我慢を強いたが、何とか年度内に完了することができた。今後も適切に情報発信し、連絡調整を行っていく。	B		・耐震工事が終了し、懸案であった南舎トイレの全面改修となった。次年度以降も、環境美化の維持に努めたい。																																																																																																																																																																					
		③ 防災用品の充実・管理が図られている	・備蓄物保管場所の拡大に努める。		今後も防災用品の充実が図られていくと考えられることから、その管理について徹底していく。	A		・PDCAサイクルに基づき適切に執行していく。																																																																																																																																																																					

項目	昨年度の課題	本年度の目標		目標達成のための手だて	中間期評価	自己評価			学校関係者評価		今後の課題
6	関係機関との連携・協力		① 情報発信の拡充	・中高連絡会を開催して、中学校へ西高校の取り組みを説明する。 ・情報発信の主たる手段である学校案内を適切に作成していく。 ・実情把握のため県内外の小中学校やIB実践校の視察、情報交換を行う。	・物語性を帯びた学校案内ができあがり、中学生やその保護者からは好評を得ている。 ・「西高だより」保護者によるページが充実してきた。 ・学校HPのトピックスコーナー、とりわけSGHの取組については頻繁に更新されている。 ・中高連絡会参加者49名(昨年46名)	・保護者からの学校評価アンケートの回収率82.1% 【学校評価アンケートより】 ・「発信情報は充実している」 教職員 88.1% 保護者 73.0% ・「西高だより」をどの程度読んでいるか 毎回43.0% 時々42.7% 不読11.3% 不知3.0% ・「学年通信」をどの程度読んでいるか 毎回48.0% 時々38.8% 不読9.9% 不知3.3%	A	A		・「西高だより」をはじめ、「学年通信」、「SGH通信」とも高い評価が得られている。次年度も、一層の充実改善を図りたい。	
			② PTA総会への保護者参加率の向上	・学校HPへ日常の活動を掲載する。	・参加率は54%であり、昨年度と同率である。	卒業式への保護者の参加人数297名 平日開催にもかかわらず、多くの保護者に参加いただけた。卒業祝賀会にも100名以上の参加があり、例年にない参加が得られた。	B			・協力を惜しまないPTA役員とともに、より良いPTA総会の在り方を考えたい。	
			③ 中学校の生徒・教員及び地域住民が西高のよさを知っている	・オープンスクールを開催して、中学生に西高校をよく知ってもらう。 ・継続して学校行事等の案内を地域、中学校に向けて行う。	・正門前の掲示板に写真部の作品を掲示したところ、地域住民の鑑賞している姿がしばしば見られるようになった。 ・オープンスクール 高知市内中学生参加者282名 高知市外中学生参加者268名	・オープンスクールに73校714名の中学生の参加があった。(昨年度より200名の増加) ・高校入試A日程試験志願率113.6%(26年度100.4%、25年度149%) ・昨年に引き続き、近隣量販店から卒業生にメッセージ入りチョコレートが贈呈される。	A			・6月の中学校訪問に向けて、説明資料や配布資料の編纂を行うが、機会があれば中学生のニーズを探索してみたい。	
7	教育振興	新規項目	○ SGH事業の進捗管理 IBコース設置に向けた研究	・SGHの取組やIB(国際バカロレア)コース設定に向けて、より効果的なカリキュラムが組めるよう、カリキュラム研究に努める。 ・英語教育強化地域拠点事業を通して、小中高の接続を意識した英語CAN DO LISTの研究や指導法の研究を行う。 ②IB(国際バカロレア)関係会議への出席、視察を通しての研究。 ②MYP様(新設中学校等)のカリキュラム作成。	・CAN DO LISTは8月中に仕上げ。SGHやIBのことについて伝えることで高校やこの先で求められている力について小中学校と共有。 ②関東・関西の先進校延べ6校を視察。3つのワークショップに参加。MYP様のカリキュラムは作成中。	・SGH事業は概ね適切に進捗している。高知県グローバル教育推進委員会において、一定の評価が得られたとともに今後の取組に対しての期待が寄せられている。他方、SGH運営指導委員会においては、ルーブリックの編成内容等についての指導・助言が得られたとともに開発に協力いただけたとお話をいただいた。何よりも、生徒の「県内唯一のSGH生として誇りに思う」、「取組によって随分成長できた」という発言が成果としての証左となろう。 ・IB教育については、先進校の視察を通して何がどの程度必要になるのか、どのようなカリキュラムを編成する必要があるのか等、客観的に分析することはできた。また、校内での共通理解を図ろうと、職員会で5分程度の演習を行ってきた。その結果、63.6%の教員がIB教育についてのイメージが図られたと回答している。	A	A		・SGH事業が滞りなく進む体制を整えるとともに、生徒がよりよい探究成果を出すことができるよう条件整備を行う。さらに、大学の研究者と連携して評価の研究を行う。 ・IB教育については、推進チームを編成しカリキュラム開発を中心に進めていく。毎月、週休日を利用して小学生やその保護者等を啓発する研修会等を企画したい。	